

ひとの暮らしを変えた“電気”

01

私たちが生まれる遙かむかし、ひとが自ら“火”を使いはじめた頃、寒い時には身体を温め、野生の動物に襲われた時には身を守り、暗い夜には足元を照らす、これまでとは全く違う暮らしがはじまりました。食べ物を焼いて食べる事も同じ頃に行われたのでしょう。こうして“火”は人類の暮らしを大きく変え文明が始まった、というのは皆さんもどこかで聞いたことがあるでしょう。

一方で“電気”はというと、静電気の発見から徐々にその特徴や性質が明らかになり、1878年には日本で初めて電灯（アーク灯）が灯され、翌1879年には有名なエジソンが「白熱電球」を発明するなど、暮らしの中に電気は欠かせないものとして発展を遂げました。名前こそありませんが新たな文明を作り上げる一つのきっかけとなったのが“電気”だったのです。電気の普及に伴いテレビや洗濯機、冷蔵庫などの家電製品、そしてパソコンや携帯電話などの通信機器などが当たり前になり、人々の暮らしは、すばらしく豊かになっていきます。

まだ火を使っていた人類が、今では様々な電化製品を当たり前を使い豊かな生活を送っている。私たちは誰もが気付かないうちに**“電気”と共に歩み、そして、これからも歩み続けていく**のでしょうか。



銅根電気工事業協同組合青年部部長
加藤 綾氏
(マツダ電気株式会社 代表取締役専務)



全道各地の電気工事士
(銅根電気工事業協同組合青年部20周年記念事業より)

「変わらない日々」を提供するプロフェッショナル集団

02

夜、家に帰りスイッチを入れ明かりを灯し、疲れてソファーに腰掛けテレビやネットを見ながら少しお酒を飲み眠りにつく。朝、携帯電話のアラームに起こされ、ホカホカのご飯を食べていざ出勤。私はこんなルーティーンの中で、たまにあるゴルフや家族と時間を共有することを唯一の楽しみに、特に代わり映えない暮らしを送っています。

ある日、携帯電話の充電が切れアラームが鳴らず、朝起きると8時過ぎ。急いで会社に向かい車を走らせるが街中の信号機が動いていない。会社に到着してパソコンの電源を入れても起動しない。照明もテレビも電話も使えない「停電」。こんな状況にならないよう、確実な施工と日々の点検を行うのが電気工事です。私たちは**“電気”を通じて「変わらない日々」を提供し続けている**のです。

心に刻まれる「ありがとう」

03

私はまだ学生で、学校に通うために新聞配達をしていた頃、配達ルートに、いつも玄関先で掃除をしながら新聞が届くのを待ち、なぜかいつもあまーいコーヒーを差し出し「毎日ありがとう、休んでいきなさい。」と声を掛けてくれるやさしいおばあちゃんがありました。新聞を買ってもらって「ありがとう」なのに逆に「ありがとう」と言われることが不思議と心地よく、辛い配達も楽しく出来た思い出があります。



数年後、今の電気工事店で働くことになり、初めは電球の交換やスイッチ・コンセントの交換という細かな対応をしていました。一つひとつは、小さな仕事かも知れませんが、「変わらない日々」を奪われたお客さまにとっては大きな問題です。火事になるかもしれない、真っ暗の中では生活できないなんて不安に思い、助けを求めに来るお客様がほとんどです。対応を終えると「助かったあ」と安心した様子で、「すぐ来てくれてありがとう」と何度も感謝の言葉をかけていただきました。

昔あんなに辛かった新聞配達も、今も電気工事店で働いていることも、改めて考えてみると、私は楽しいと思えることの方が多いです。それは**人に求められ、出会った人に感謝されたことで、仕事にやりがいを感じていた**からに違いないでしょう。私は、**お客様から直接「ありがとう」の言葉を一番聞けるのは、「変わらない日々」を提供する“電気”なんだと、今の仕事を誇りに思います。**

誰かに求められる仕事

04



では、実際に電気工事店で働く一日をご紹介しますが、考えてみると特別なことはなく、朝は8時から夕方5時までの勤務が一般的です。この間、休憩時間やお昼休みはもちろんあります。

少し違うところと言えば、**みなさんが働く場所は会社ではなく現場です。**ほとんどの場合、現場のルールに合わせて就業スタイルが変わりますので、朝7時に朝礼を行う現場であれば合わせて出勤しなくてはなりません。また、建物の一部改修工事などの場合は、営業が終了した後に工事を行う場合もあり、夜8時から工事開始なんてことも稀ではありません。

新築工事や改修工事、または屋外工事など、電気工事を行うことには変わりはありませんが、工事の進め方が大きく変わってくるので、一般的にイメージする事務職の働き方とは違い、不規則になりがちな面があり、体力の必要な職業となります。ですが最近では女性の電工もどんどん増えてきているので、一般的な男性の体力があれば十分です。**体力よりも、他のひとと上手くコミュニケーションをとり、順序良く物事を進めることが出来る、そんな方に電気工事は向いていると思います。**

今の高齢化社会の問題は、電気工事業界も例外ではなく、全国的に電工の数が不足し始めています。「変わらない日々」を奪われた多くのひとが、電工の救いを求め待っています。私たちの次に、**困っている方を救うのは、今日出会った「あなた」かも知れませんね。**たくさんの方が電気工事業界に興味を持ち電工を目指してもらえよう、私たちが日々努力を重ね、皆さんをお待ちしております。



70周年記念事業 花時計イルミネーション